



2016 / May

Kindergarten Information Development Society

東京都私立幼稚園連合会

編集発行人 友松浩志 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館 TEL03(3262)3666・FAX03(3264)6195

## 特別寄稿

# 幼児の運動能力を育む遊びや活動のとらえ方

立教女学院短期大学幼児教育科教授 鈴木 隆



幼児の運動能力の低下傾向は、広く知られています。ここでは紙面の都合上、データをお見せすることはできませんが、

杉原隆氏（東京学芸大学教育学部名誉教授）らの一連の運動能力調査によれば、1986年から1997年にかけては、すべての種目において低下しています。この約10年間に幼児の運動能力が低下したことは明白です。97年から02年、02年から08年にかけては、横ばい状態とのデータも示されています。

また、25m走を見ると66年と08年では男女ともに08年の方が高い運動能力を示しています。66年は、私は4歳です。私が子どもの頃と最近の子どもとは25m走に関していえば最近の子どもの方が早く走れるということです。だからといって問題が

ないというわけではありませぬ。幼稚園での子どもの動きを見てみると、子どもの動きの稚拙さや、ぎこちなさに課題を感じます。ドッチボールなどは以前に比べてダイナミックさに欠けるように思います。

現場の課題としては子どもの動きを多様化すること、獲得した動きを洗練させることが重要だと考えています。多種多様な遊びを経験し、その中のいくつかを遊び込むことによって達成できるでしょう。

これらが、どんな遊びの中で達成できるのかについては様々なご意見や視点があるでしょう。私学には建学の精神や、それぞれの園の方針や独自性がありますので、一律に示せるものとも思いません。しかしながら、幼児期に適したものであるかどうか、本当に効果があるものなのかどうか、効果以上に失うものもあるのではないかな等の視点で、常に検証する姿勢を持つことが不可欠です。そして、

そうしたシステムに欠ける園も実際にはあるように思います。

昨年度2月頃、組み体操についての報道がなされました。大阪市教育委員会が「ピラミッド」と「タワー」を禁止としたというものでした。その後あちこちの自治体でも同様の方針が示され、3月末には東京都教育委員会が都立学校での「ピラミッド」「タワー」を平成28年度は原則として休止の方針を出しています。こうした報道を受けて、安全第一であり禁止は当然というものから、高度な技に挑戦することで得られる達成感はあるのだから一律に禁止すべきでないなど、賛否両論が飛び交いました。組み体操に取り組んでいる幼稚園では、混乱があつたかもしれません。

私はこうしたときに、それぞれの園の考え方や検討の仕方が如実に表れると思います。自園での取り組みがきちんと検証され、その活動の意義を確認できていれば、右往左往する必要

はないのです。それが無い、あるいは昔からやっているから等の理由しかない場合には、不安にもなるでしょうし、継続に自信がなくなります。そしてこうしたことは、組み体操に限ったことではなく、例えば「マラソン」「鼓笛隊」「パラバルーン」などの様々な活動にも共通しています。自信を持つためには、

実効的で定期的な検証に園全体で取り組むべきです。この検証には、自園でのとらえ方（園長の思い、教職員の考え、保護者の思いなど）にとどまることなく、最新の学術的見地や現場での取り組みなどを取り込みながらすすめることが重要です。ちなみに私ならば、ここで得られる経験や育ちは、組み体操でしか経験できないのか、他に似た経験ができる遊びや活動はないのか等の視点で、安全面との兼ね合いをはかりながら検討すると思います。固定観念に縛られず、自由に意見交換できる話し合いが不可欠です。

平成27年度 新規採用教員研修会

平成28年3月23日 / アルカディア市ヶ谷

子どももの明るい未来を拓く、そんな先生目指します！

加藤私学部長



友松理事長



加藤教研委員長



シンポジウム

公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会（友松浩志理事長）は3月23日、アルカディア市ヶ谷において東京都との共催による標記研修会を開催しました。この研修会は新規に採用された教員を対象に、子どもたちが自らの力で明るい未来を拓けることを目的として実施しています。今回は全都からおよそ700名余の新任教諭が参加し、理想の先生を目指して研修に臨みました。

開会式

す」と挨拶しました。

はじめに友松理事長は「東京都内の幼稚園は約800園ほどあります。新しい制度である認定こども園としてスタートした園もありますが、この研修会は私立幼稚園が新規に採用されたすべての先生が参加できる研修会です。本日は大勢参加して頂き感謝します。私は、子どもというのは正に私たち自身にとっての未来だと思っています。私たちの命というのは、それぞれ限られた命を生きていくわけですが、それを子どもに伝えていく。伝えて、伝えて、伝え続ける。伝えていくことが何より自分自身の未来を作ることだと思います。この4月からご自身はもとより、子どもの未来も自分が作っていくんだ」という決意をもって取り組んでいただきたいと思います。桜の開花もこれからが盛りです。先生方の新たな出発が大きな開花の時を迎えられま

すことを心よりお祈りいたします」と挨拶しました。続いて、東京都生活文化局の加藤仁私学部長から「本日は早朝から大勢の皆さんにご参加頂きまして、まず御礼申し上げます。入園式まであと僅かとなりました。子どもたちとの新しい出会いに、胸を躍らせておられるのではないかと思います。昨今、少子化、核家族化の進展、地域との繋がりの希薄化など、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境が変化しています。こうした中でそれぞれの私立幼稚園が特色ある教育を実施し、東京の幼児教育が果たす役割は益々重要なものになっております。その役割を十分に果たせるかどうかは、実際の現場で主体となつて取り組まれる皆さんお一人おひとりにかかっています。そのことを是非、認識していただきたいと思います。幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を担う重要なものです。園児への深い理解と愛情を持ち、子どもたちの成長を託

せる先生になられることを心から願っています」と激励をいただきました。引き続き、加藤篤彦教育研究委員長より、研修会の趣旨説明がありました。

「基調講演の若月芳浩先生（玉川大学教授）の講義は、今日的な幼児教育の大切さを幅広く総括してくださると思います。辛いとき、苦しいときなど、皆さんはいろいろな場面に遭遇すると思います。そんな時『もう一度頑張ってみよう』という気持ちにさせてくれるお話をしてくださいませ」といった具合に、講師や上映する映画の聴きどころ・見どころなどについて分かり易く説明されました。

研修

研修は、若月芳浩先生（玉川大学教授）による基調講演「保育者の心構え」不安と向き合い、自分らしく保育の道を歩むために」からスタートしました（要旨別掲）。

続いて、映画「人権問題を考える」私からはじめる人権」では、自分たちが知らない、あるいは無意識の中にある問題を直視しながら対応していかなければならぬケースなど紹介

総司会  
吉澤先生



開会式あいさつ  
関先生



司会  
網干裕之先生



パネラー  
秋山泉先生



パネラー  
清野真琴先生



パネラー  
斉藤はるか先生



しつつ、人権について問いかける映画でした。

午後からは、シンポジウム「先輩としてお伝えしたいこと」。パネラーは、清野真琴先生（府中白糸台幼稚園教諭・府中市）、斉藤はるか先生（やした幼稚園教諭・中野区）、秋山泉先生（東一の江幼稚園教諭・江戸川区）。司会は網干裕之先生（狭山ヶ丘幼稚園園長・東大和市）です。

清野先生の保育歴は1年、斉藤先生は5年、秋山先生は7年間勤務ののち退職し、再び復帰されたそうです。司会の網干先生の緩急自在なコーディネートぶりは3人の先生から、①保育者との関わり②子どもとの関わり③保護者との関わりなどの体験談を見事に引き出し、楽しいことも辛いことも現場が見えるようなお話ぶりでした。

先生たちが語る言葉に深く頷きながらメモをとる参加者の表情には、次代を担う先生になるのだという誇りが感じられました。

最後の講座は、二階堂邦子先生（横浜女子短期大学教授）の「手あそび・うたあそび」です。手あそびのルーツから、たくさんのお話を指導してくださいました（要旨別掲）。



### 基調講演

## 「保育者の心構え」

「講師」若月芳浩先生（玉川大学教授）

若月先生から「保育者の心構え」と題して、「苦しい」「事がいつぱいの参加者に向けて実践的かつ意欲的になれる4点についてお話いただきました。

1点目は「心構えのために必要なこと」。大前提として強調されていたのが、これまで学生時代に得てきた観念を棄てる学習棄却の連続としての1年目の在り方です。新しいこと、その

園でなされていることを素直に受け入れることから始めないと自分自身が辛くなる。その上で先生とは、こどもからもういっとう人かを知ろうとされ、観られている存在として子どもと向き合い理解する相互理解の関係であることを意識してほしいこと。

2点目は、「不安と向き合う時」。子どもへの対応、態度が

子どもの姿を「読み取らず（見守らず）↓理解せず↓対応↓振り返らない」としたら子どもはどうなってしまうのか、また保護者への対応の姿勢や仕事全般での報告や連絡、相談の重要性について。

3点目は「子どもの世界を楽しむために」として日々の記録や情報共有（同僚性）の大切さ、子どもの「個と集団」の両義性から考える保育とは何か、子どもの主体性と大人の意図（願いのどちらかが大きすぎることなくバランスよく絡ませた保育とは何か、等この仕事ならではの

難しさや楽しさについて。

4点目は、自分自身が辛くなった時、嫌になった時こそ心を閉ざさず、なんとか自分の中で折り合いをつけていく心の回復力レジリエンスの方法について。

最後に、倉橋惣三氏の言葉を引き、ご自身も『30年経ってもまだ分からない、正解は見えないが子どもの素晴らしさ、育ての素晴らしさに誇りを持つていることは確かです』と締め括られました。

広報委員・溝淵一子

（世塚幼稚園・渋谷区）



### 講座

## 「手あそび・うたあそび」

「講師」二階堂邦子先生  
（横浜女子短期大学教授）

二階堂先生からは、本日最後の講演として「手あそび・うたあそび」について実技をふんだんに交えたお話をいただきました。

「手あそび」が往々にして子どもたちを静かにさせる、集中させるための道具として用いられているが、先生はそれではない——手あそび、うたあそびはあくまで独立した、それ自体が「あそび」であり、あそびとは子どもに寄り添ってそ

の子が嬉しいな、楽しいな、と思えること。一つの手遊びの中に子どもの発達過程に関わる事象がどれほど詰まっているのか、それに気付いてほしいと話されました。

会場の参加者も巻き込んだ実演で紹介された手あそびのうち、「キャベツの中から」では、キャベツを形作る両手の動作ひとつひとつ、ゆっくりびつちり巻いて行くさまを表現した

り、「最後に生まれる蝶々は何チョウ？キャベツで育つチョウはモンシロチョウ」。ここで図鑑や絵本を用意しておけば子どもも虫や自然への興味を引き出すことにもつながるなど、いつも何気なくやっている手あそびがたちまち大きな広がりをもっていることに「気付」かされました。

見てきたことをそのまま（表面だけで）鵜呑みにしないこと。25人の子どもの10年見てきたら250人分の気付きを手にする

ことができる。

先生自身、保育の中で関わりにくい子どもと関われるきつ

けとなった手あそびうたが「こんなにも子どもの心を動かすことができるんだ！」という最初の「気付き」から多数の手あそびうたを研究し、何冊もの編纂を手掛けてこられています

最初は「何もできない」と思っていた先生に教えを乞い、そのでの注意やほめ言葉をノートに書きとめていくと、その中に気付きがある。

「教育とは、気付いてやってみてその積み重ねです。10年間続けてプロになってください。」とエールをいただきました。

広報委員・溝淵一子

（世塚幼稚園・渋谷区）

第3回 園長・主幹研修会

平成 28 年 3 月 1 日 / アルカディア市ヶ谷

連携っておもしろい!!  
校長・園長が “ホンネ” で語る保幼小連携

【講師】 酒井敏男先生 (品川区立第一日野小学校校長)



目的として、連携・交流を通して「子どもが育つ、親が育つ、教師が育つ」をスローガンとして掲げた。

『子どもが育つ』

交流を通して小学生には「自己有能感」「自己有用感」「自己肯定感」等の自尊感情を育て、そして交流相手の園児には憧れの気持ちを持つことが目的である。

第3回 園長・主幹研修会は、保幼小連携教育を研究されてきた酒井敏男先生に登壇していただいた。以下概要を示す。

酒井先生の第一日野小学校と同じ敷地内にある幼保一体施設の第一日野すこやか園、品川区立西五反田保育園(小学校から徒歩約10分)での連携教育が本格的に稼働したのは、平成21年度からである。保幼小の連携の

で積極的に発信し、教師・保育者へ敬意と感謝を持って欲しいと願っている。

『教師が育つ』

教師の児童観や指導観、教育観が変わることである。教師の1日保育体験を通して、目の前の子どもがどのような幼児教育を受け、10〜20年後どのような社会で生きていくのかを考えた想像したりすると。子どもの過去を知り、保幼小で過ごしてきた土台があつて今の子どもたちがいることを分かって欲しかった。

同校の特別支援学級の児童と保育園の5歳児は年間4回交流している。また、5・5交流(5歳児と5年生)、5・1交流(5歳児と1年生)、4・4交流(4歳児と4年生)といった交流も実践している。

『親が育つ』

児童の心よりどころは家庭であり、子どもは親の愛情の中で育つことが健全である。子どもたちがどのような教育を受けているのかを保護者へ毎月の「交流だより」やHPなど

当初、教師たちからは不評であつたが、1日保育体験を通して、教師の子ども観が大きく変わってきた。体験以前は、「1年生は何もできない存在」という考えが主流であつたが、体験後は「子どもたちは様々な体験を通して、たくさんできることがある、可能性を秘めた存在」との認識が変わつた。

保幼小連携は難しいといわれるが、どうして連携するのか。子どもを育てたい。教師の意識改革をしたいという思いがあつた。教師の意識を変えるには、校長が意識を変えなくてはならない。教師の意識を変えることで、教育の改革に繋がる。そして、連携において、保幼小中に上下関係があつてはならない。保幼小が上、小の上になつてあるという考えは良くない。教育のあり方として、上下関係はないということ。そうしないと、幼児教育が小学校の準備教育と考えられてしまう恐れがある。本来の幼児教育と違つたものが

生まれてしまうのではないかと。保幼小連携教育では、交流さえすれば良いという考えはない。連携の目標は交流ではなく、保幼小の教育の質を高めていくこと。交流はその手段である。保幼小連携は、校長や園長が主導しなくてはならない。酒井先生は保幼小を運ぶことが特別ではなく当たり前になつていく。校長と園長の距離が近づき、雑談の中から、幼児教育と小学校教育を互いに学びながら、連携・交流に繋げて欲しいと述べられた。

広報委員・山崎貴之

(青鳩幼稚園・葛飾区)



御一報次第カタログ進呈

ピーポッポ印 園服・園帽・トレーニングウェア・カバン製造元  
株式会社 **成増園服研究所**  
東京都板橋区大山金井町 43-1 TEL (03) 3957-2176 (代)

## 幼稚園探訪 ④6

江古田幼稚園 (練馬区)

すてきな歌声が  
あふれる幼稚園

平成28年3月8日



春の日差しが心地よく射す3月8日、



私たちは江古田幼稚園を訪れました。西武池袋線江古田駅を出て、桜並木を少し歩いたところに江古田幼稚園があります。表門をくぐると左側に日当たりのよい屋内テラスがあり、ここでは未就園児の親子教室が行われていました。園庭へ進むと正面に大きな桜の木があり、右側にはりっぱな松の木もあります。ともに樹齢は100年近いとのこと。



園庭の左側に建つ園舎には、1階に4クラス、2階に5クラスがあります。日当たりのよい園庭では、年中組の子どもたちがドッチボールをしています。2階のホールへ案内していた



だくと、卒園を控えた年長組の子どもたちが卒園式などで歌う歌の練習をしていて、たくさんの歌を聞かせていただきました。子どもたちは、指揮者の先生が構えると、一斉に指揮者を注目します。歌が始まると、しっかりと口をひらき一言ずつ丁寧に歌い、全員が心を込めて歌っているのが初めて聞く私たちにも、とても伝わってきました。



野間久美子園長先生に聞くと、子どもたちが年少組の時から、歌を歌うときには先生が歌詞をきちんと説明し、ピアノの音をよく聞くこと、そして気持ちを込めて歌うことの大切さを伝えていくと教えていただきました。

卒園を控えたお忙しい時期にもかかわらず幼稚園探訪を受けはじめ教職員の方々、そしてすてきな歌声を聞かせてくれた江古田幼稚園のみなさん、ありがとうございました。

広報委員・村瀬光大  
(浅間幼稚園・江戸川区)



園舎のクリーニングはおまかせください!!

**Kawai Clean SAT**  
カワイ クリーン サット

弊社は長年にわたり「健康教育」を企業理念として、**肝油ドロープ**を全国の園児の皆さまに、先生方のご理解のもと提供させて頂いております。その経験をいかし、より衛生的で健康的な保育環境を提供するクリーニング事業を手掛けております。

先生方の手の届かない場所もおまかせください!

作業内容

- 床ワックスがけ
  - トイレ洗浄
  - エアコン分解洗浄
  - 厨房
  - 砂場抗菌処理
  - 窓ガラス
  - カーペット
  - その他お掃除全般
- ※お掃除全般のご相談・お見積りは無料です。

70年ならではの丁寧さと、技術とノウハウを駆使した安全で有効なサービスをぜひ実感してください。

肝油ドロープ 発売元

河合薬業株式会社

Kawai Clean SAT

〒164-0001 東京都中野区中野 6-3-5

TEL. 03-3365-1156 FAX. 03-3365-1180

# 提言 Proposition



教育ジャーナリスト  
西東 桂子 (さいとうけいこ) さん

東京生まれ、仙台育ち。朝日新聞社発行の月刊『幼稚園ママ』の編集長を経て 1998 年からフリー。子育て向けの本を上梓する傍ら、教育ジャーナリストとして講演活動を行う。また、園児とママの情報誌、月刊『あんふあん』（サンケイリビング新聞社）の巻頭特集を監修、書籍編集者も務める。著書・監修書に『まるわかり幼稚園ライフ』（ポット出版）『ママ友おつきあいマナードリル』（主婦の友社）。6 月に『保護者の心をつかむ保育コミュニケーション力』（チャイルド本社）を上梓予定（発刊次第紹介）。都内の幼稚園で保育ボランティアを長年実践中。

## こんな幼稚園なら、先生は辞めない！

今の若い先生たちは「さとり世代」

——西東さんには、以前にも本欄にご登壇いただいたことがあります。確か「食育」についてのお話でした（平成 17 年 3 月号）。その後、子育てについてのアドバイスをはじめ、これまで多くの保護者と接してこられたご経験から、我が子を入れた幼稚園とはどのような園か。ママたちは、園長や担任に何を望んでいるかなどについても提言されていると伺っています。きょうはその辺りのことなど、お聞かせいただきたいと思います。

「若い先生は、なぜ簡単に幼稚園を辞めていくのか」という趣旨の話をしてほしいとのこと依頼でした。近年、幼稚園では教師の確保が難しくなってきたと聞きます。そこで園長先生方は、新任教師がどのような気持ちで幼稚園を志望したのか、若い先生たちの特徴など知りたいのだとおっしゃいます。そのお気持ちは大事です。しかし、「新任の先生が辞めない幼稚園であるためには何が必要か」という視点も忘れずに持つてほしいのです。「悪いのは早く辞める先生」だと思ひ込むと、「幼稚園側は

は問題はない」と思ってしまう。時代が変われば、人の考え方も価値観も変わってきます。保護者もどんどん変わっていきますけれども、若い先生たちも変わっていきます。それに合わせた教育方法、指導の仕方を模索していくのが園長先生や設置者の方々の役割ではないか、私はそう思っています。

——園長として耳が痛い！（笑）。  
**西東** 私の話は世代論ですか？ 全員に当てはまるわけではありませんが、全体の特徴がありますよ。「こういう特徴がありますよ」ということは話せます。今の 1 年・2 年・3 年目くら

いまでの先生たちは「さとり世代」と呼ばれています。ゆとり教育の申し子で「ゆとり世代」と呼ばれた時期もありました。ただ、「ゆとり」という言葉が差別的表現の傾向があり、しかも「ゆとり教育」を否定するニュアンスも感じられるというので、特に 1990 年生まれ以降を、若いのに妙に悟っているとして「さとり世代」と呼ぶようになりまし。バブル崩壊後に生まれ、平成不況の下で育った結果、物欲がない。せいぜいお気に入りのも一つも買えば満足。車にも興味がなく、この世代は運転免許保有率も下がっています。不況のため、どんなに努力しても企業の採用は狭き門。やがて彼らは高望みを失くなってしまったのです。恋愛熱も薄いとされたのがこの世代の人たちです。また、インターネットが肌に馴染んだ世代ですから、たいいていの知識はキーをたたけば得られる。だから、無駄な努力は嫌。——確かにその世代の人は諦めも早いし、高望みしない、その傾向はあるように思います。

**西東** 2006 年から 8 年にかけて女子高生や女子中学生がよく使った「KY」という言葉、ご存じですか？ 『空気が読めない』というこ

とを指すのですが、今の若い保育者たちは、その時期の中高生です。人から「空気が読めない」と言われることをとても怖がる。ですから、逆にその場の空気を読み過ぎて『こんなことを言えば、雰囲気が悪くなるのでは・・・』と、嫌われることを恐れて職員会議などでの発言を控えてしまう世代です。

更に特徴的なのは、『コミュニケーション』という言葉。「コミュニケーション障害」という言葉。「コミュニケーション障害」を略したもので、「ごめんね。私、コミュニケーションが苦手だ」と自ら表明することによって大目に見てもらいたい、エクスキューズしたい人たちが多い世代とも言われています。

そこで、『大人との会話は苦手だけど、子どもとなら大丈夫』そう思って保育者を志望する学生が結構います。しかし、子どももの後ろには保護者が立っています。しかも、年上のママたちばかり……（笑）。

採用理由を告げて  
自信をつけさせる

——そういう場合、どのように教えていけばよいのでしょうか？

**西東** 欲のない「さとり世代」で、自尊心も高くない人たちです。自尊重も高くない人たちですから、先ず自信を持たせることが大事です。

例えば、「うちの幼稚園があなたを採用したのは、あなたの『ココ(明るさ、優しい笑顔など)』に魅力を感じたからですよ。その良さを保育に生かしていきましよう」と、本人が持っているもの、それを自ら認識できるように褒め言葉をかけてほしいです。それが第一。

2番目は、具体的に指導してあげることです。基礎の勉強はしていても実践経験は殆どないわけですから、保育現場で何か気づいたことがあったら、その日のうちに、具体的にアドバイスをあげることです。

若い先生にとつて自分の魅力を認めてくれ、具体的に素早く指導してくれる園長先生に伝えたいと保育にも熱がこもってきてますし、当然保育も楽しくなってきました。そんな園長先生がいる幼稚園であれば、辞めるはずはないでしょう。

### ママたちが観る 保育者の資質とは

若い先生が保護者との関わりに苦労するのはよくあります。何か良い方法はありませんか？

**西東** 「よい関係を築きな

い」と園長先生に言われても、相手を知らない不安はつづります。大まかでもいいですから、ママ像を知らせてあげることですね。それには、ママたちは先生の何を観ているかを教えるといいでしょう。ママたちが観る先生への視点は二つあります。「先生は子どもが好きかしら」「保育者としての資質はどうかしら」、この二つです。

ママたちは保育者ではありませんから、「子どもが好きかしら」ということをどうやって測るかと言いますと、「子どもに笑顔で接しているか」「どんな言葉掛けをしているか」そのあたりの雰囲気を観るのです。入園したばかりの年少さんに「そんなことしたらダメでしょ!」と厳しい言い方をする先生のことを好きになつてはくれません。

保育者としての資質については、ママたちは六つの視点で測ります。

- ① 一生懸命に保育に携わっているか
- ② 元氣いっぱいか
- ③ 明るい先生か
- ④ 子ども一人ひとりに公平か
- ⑤ 子どもに対して言葉遣いがきれいか
- ⑥ 先生自身の身だしなみ

最後の「先生自身の身だしなみ」は大きなポイントです。マ

マたちは目に見えることでしか判断できません。「子どもが好きか」を見るのも、「笑顔」とか「言葉掛け」など、見た目でしか判断できませんからね。それを認識しておくことは重要です。

保育者の中には「保育が良ければいい」と思っている人もいます。この大事さを知らない人も意外と多いようです。特に、新人の先生には「見た目」を大事にしてほしいです。保育の質は後からついてくるのです。先ず「見た目」が大事だと言つてあげてください。特に、新学期には保護者が園庭にいる機会が多いですし、とりわけ新入園児のママたちは隅々まで見えていますからね(笑)。

見た目が大事、いいですね。そのママさんたちですが、担任に何を望んでいるのでしょうか？

**西東** これは、私が『幼稚園ママ』や『あんふあん』など育児誌に携わってきた中でアンケートの結果から出たものですが、大別すると五つあります。

- ① うちの子をよく見てくださいますか
- ② お友だちと仲良くさせてください
- ③ 体を使って遊ばせてください
- ④ 子育ては結構大変なので、

そのことを先生にも共感してもらいたいな

### 親バカって 素晴らしい!

なるほど。「体を使って遊ばせる」も五つの中に、いいですね。

**西東** 順に説明させていただと、「うちの子をよく見て」というのは、親バカと言つてもいい。先生方は親バカな親を馬鹿にする傾向があるようですが、幼児期の親バカは素晴らしいことです。親バカでない親が虐待に向かうのですから。親バカを良いことだという気持ちで接してほしいです。

過保護とは違う？

**西東** 過保護というのは、「手出しする」ことです。最初、先生は仕方がないでしょうね。先生が、親も鍛えていってください。愛情を持つて「うちの子が一番」と思えるのは素晴らしいことだと思います。親バカの気持ちには共感してあげてほしい。

「友だちと仲良く」は、ママがトラブルを嫌うせいです。ママ友付き合いに気を回す世代の親ですから、トラブルなんかの謝罪など想像しただけで引いてしまう。仲間はすれにも敏感で、

どうか喧嘩をしないでほしい、みんなと仲良くしてほしい、そんな気持ちがあるが「仲良くさせて」に変換されていくのです。

「体を使って遊ばせて」は、公園が安全ではなくったという時代性があります。幼稚園が一番安全・安心な遊び場所です。親の切なる気持ちが伝わってきますよ。

「子育てに共感して」には、子どもを持つ先生はともかく、未婚の若い先生には実感がない。そこで、「私には子どもがいませんが、お母さんって凄いなと思います」と言つてあげるだけで母親は救われます。

「子育ての悩み」も同じです。「幼稚園では4〜5時間だけど、子育てで24時間ですもの。本当に頭が下がります」と言つてあげる。若い先生であれば、「私は新人で至らない点があります、私の後ろにはフォローしてくれる先輩や先生たちが大勢いますから、ご遠慮なくお声掛けしてください」と最初に言つておくことが楽になります。

最後になりましたが、幼稚園教諭という仕事の奥深さ、面白さも、若い先生方に繰り返し伝えて言つてくださいますか。

——— ありがとうございました。

(インタビュアー) 広報副委員長・野上 秀子/久我山幼稚園・杉並区)

## 都私幼連の動き

### 【4月】

- 4 / 5 認定こども園委員会打合せ会
- 4 / 8 学校法人立協議会正副幹事長会
- 4 / 14 学校法人立協議会運営委員会
- 4 / 15 振興対策委員会  
経営研究委員会  
幼稚園教育研究会
- 4 / 20 教育研究委員会  
認定こども園委員会
- 4 / 24 幼稚園フェア
- 4 / 25 都私幼連・研 監査会  
正副会長打合せ会  
総務委員会
- 4 / 26 広報委員会

### 【今月】

- 5 / 9 経営研究委員会  
幼稚園教育研究会
- 5 / 10 常任理事会  
理事会  
(公社) 理事会
- 5 / 11 新規採用教員研修会  
(飯田橋レインボービル)
- 5 / 16 認定こども園委員会  
幼稚園教育研究会
- 5 / 17 P連 監査会
- 5 / 20 教育研究委員会小委員会
- 5 / 23 連合会 総会  
(公社) 総会  
(公社) 理事会
- 5 / 24 広報委員会
- 5 / 26 教育研究委員会(グランドヒル市ヶ谷)
- 5 / 27 ①P T A 教養講座
- 5 / 30 振興対策委員会

## 子どものパワーって凄い!

多摩みゆき幼稚園 (多摩市)  
園長 関岡 貴之

新年度が始まり、約1ヶ月が経ちます。毎年この時期に思うことがあります。それは3歳の新入園児たちの「～したい」という欲求の強さ、そしてその素晴らしさです。もちろん、泣く子も多く保育者としては大変な時期です。しかし、帰りたい、お母さんに会いたいという気持ちも立派な欲求であり、自己主張ができていたことでもあります。思う存分遊んで、お腹が空いてお弁当を食べて、また元気になって遊ぶ。最後には疲れて眠くなる。すべてが「～をしたい」という欲求です。この内面から出てくる子どものパワーは本当に素晴らしいものです。

私たち保育者がこのパワーを押さえつけて、大人の敷いたレールの上をおとなく走っていく子どもに育ててはいけません。幼児期には遊ぶことの楽しさを知り、さらに友達と一緒に遊ぶことはもっと楽しいということを知る必要があります。年々自分にはそのようなパワーが薄れてきていると感じています。子どもたちの元気いっばいに遊ぶ姿を見て反省し、何事にももっと意欲的に取り組まなければと自分に言い聞かせています。

先日「世界幸福度ランキング」が発表されました。1位はデンマーク。日本は53位でした。報告者によると、総合的な幸福度には、経済的状況のほか、幸福度の平等さや社会的支援などが反映されているそうです。日本はまだ様々な点で課題が多いですが、未来を担う子どもたちのためにも改めて頑張ろうと思いました。



◆東北大震災から5年、その感慨に浸りながら春休みを過ごし、無事入園式を迎えて1カ月、力強く鯉のぼりの泳ぐ下、園児の遊ぶ声が園庭に響いている幸せ◆騒音を理由に保育園開所が近隣の反対に遭うというニュースも流れる中、地域と結びつきながら営んできた幼稚園の貴重な伝統をますます大切にしなければと思う◆今年は初めて地元小学校の入学式に参列させていただいた。保護者の強い要望により先天的な障害のある卒園生がその小学校の通常学級に進学が決まり、入学式を見届け、学校にもご挨拶したい思いが強かったためである◆参加してみると、当初の目的以上に今の入学式のやり方などに触発されるものがあり、幼小の連携について改めて考えるきっかけとなった。折しも障害者差別解消法がこの4月から施行され、また小中一貫校の論議が地元でも進められていると聞く。小学校の現場も変革に揺れているのかもしれない◆稿を終える頃、熊本大地震の報が入った。直接の被害はもとより、新学期早々学業もままならない関係者の方々の心察するに余りある。(藤原)

健康日記